

日時：平成24年10月16日（火）13：30～15：30
場所：総合保健福祉センターりんくる 交流活動室

【 当 日 の 内 容 】

13：30

◆ 開会

13：30～13：35

◆ 本日の進め方（事務局／株ドーコン）

- ・グループ別意見交換の進め方

13：35～13：45

◆ 避難行動の情報提供（事務局／株ドーコン）

- ・基本手順、災害種別の避難時の留意事項、避難行動のルールについて、災害時の地域貢献について

13：45～15：00

◆ グループ別意見交換

- ・第1回・第2回の意見交換結果の確認
- ・通常避難者の避難行動の確認
- ・避難行動のルールについて意見交換
- ・災害時の地域貢献について意見交換

15：00～15：30

◆ グループ別意見の発表

- ・各グループ代表者から発表

15：30

◆ 閉会

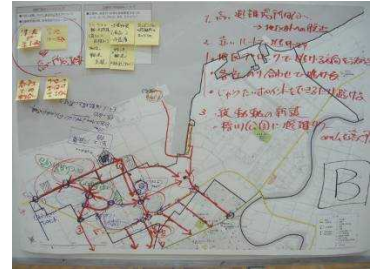


◆グループ別意見の概要

※Aグループの出席者は0人

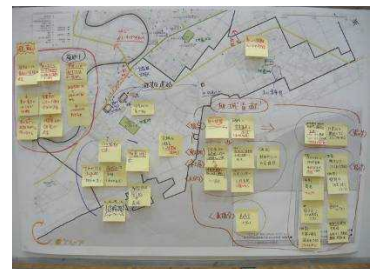
Bグループ（6名）

- ・ 地区内に高い建物はあるが、自社社員が登るだけで、他社の従業員の対応までは難しい。そのため、まずは建物の外に出て、災害の状況を確認し、建物の高いところへ避難することが必要。落ち着いたら、地区外への脱出を考えなければならない。
- ・ 企業が集中しているため、一斉に避難すると渋滞の可能性があるため、避難ルートをいくつか考えた。
- ・ 車で避難する際は、地区単位で逃げる方向を決め、相乗りで避難することが必要。
- ・ 樽川公園の中に避難タワーがあれば一時的に集まることができると思う。
- ・ 災害時の地域貢献については、落ち着いた段階で石狩市やその周辺住民への輸送救援や、物資が被災しない限りは食糧・段ボールなどの物資救援が可能。さらに自社の重機を使った救出活動もできるのではないかと。



Cグループ（6名）

- ・ 避難するにあたり、まずは災害情報を踏まえて行動をすべき。
- ・ 津波避難の場合、高い社屋を持っている企業が2社あり、避難できる場所はある。しかし、どれだけの人数を収容できるかについては今後の課題。
- ・ 具体的な避難ルートは想定しづらく、交通渋滞による2次災害の恐れなどがある。川と海に囲まれた地区であるので、新設のルートの確保が必要ではないか。
- ・ 地盤が悪い場所もあり、液状化の危険がある。また、下水など老朽化した場所や、水はけが悪い場所、風力発電の風車もあるので、これら危険箇所への対応が必要。
- ・ 地域貢献については、水や紙おむつなどの物資を提供する協定を市と結んでいる企業もいる。そのほか、輸送支援や人的支援、社屋・駐車場の敷地などの提供ができる。



Dグループ（4名）

- ・津波災害を想定した場合、10m以下であれば自社の屋上に避難し、10m以上の場合は、海岸線に垂直に避難するなど、災害の状況に合わせて避難を行う。
- ・しかし、車で避難すると渋滞が発生する可能性があるため、避難する時の車は自分の車ではなく、会社の車（大型のバスなど）で避難して車を減らすことや、各社で避難経路を決めておくことが必要ではないか。
- ・災害時の地域貢献は、物流や食糧の支援は可能。ただし、どのように提供するかということが今後の検討課題。



Eグループ（3名）

- ・地震災害の場合は、自社の敷地に出て避難する。
- ・津波災害の場合は、一時避難所である樽川中学校まで、徒歩で避難すると時間がかかるので、車で避難することになる。そして車で行けるところまで行き、渋滞の場合は乗り捨てる必要がある。
- ・乗り合いの際は、自分の車の使用を希望する方が多いと想定されるので、現実的であるかどうか検討が必要。
- ・また、緊急時は一方通行にする等のルール整備や、各企業が緊急用の自転車を用意しておくこと、平地用のリフトなどがあっても良いのでは。
- ・緊急用の備蓄物資を日頃から用意している会社は少ないと思う。そのため、緊急用の物資を一時避難所に対して日頃から物資援助しておき、有事の際は自分たち企業も使えるようにしておけるよう、避難所や地域に備蓄する考えもあるのではないか。
- ・自社の社員の安否確認は各社で行うべきであり、そのための情報通信手段は用意しておくべき。

